

海のノウハウ

ここでは、地元の海に生きる方達からお聞きした『海のノウハウ』を紹介していきます。

寿都で聞きました。

寿都のだし風(南南東)に注意！

寿都町は全国的にも風の強い町として有名です。春から夏にかけて陸上から海上に向かって吹く、南南東の風は『だし風』と呼ばれています。

噴火湾側の長万部から黒松内、寿都の間が谷のような地形のため噴火湾から日本海へ向かう南風が谷を通過する際に収束され強風となり寿都湾内が時化ることが多くあります。特に弁慶岬が北西の風の場合には、寿都の沖合で2方向からの風により危険な三角波が発生することもあるため注意が必要です。

厚田、浜益で聞きました。

積丹岬の風向風速に注意！

石狩湾内の気象・海象を判断するために積丹岬の風向風速の現況は非常に有効です。特に秋から春にかけては気象状況の変化が激しく積丹岬で南西の風が強く、北西へと風向が変わるような場合、石狩湾に風が入り強風となる傾向にあります。

平成15年3月に厚田沖で発生したプレジャーボート転覆事故前、積丹岬では南西の風が強く、地元の漁師さんは、天気予報、気圧配置を勘案し荒天となることを予想して誰も出港していなかったそうです。事故当時の海象は北西の風18m、波高5mになっていました。

船舶気象通報等を利用し気象の状況を把握し海難を未然に防ぎましょう。

島牧で聞きました。

南東風、西風に注意！

プレジャーボートで茂津多岬から弁慶岬に向かう場合、だし風(南東風)が吹くと、沖に出るほど波が高くなるため弁慶岬をこえられない場合があります。また南西風の時は、白糸岬から茂津多岬にかけて波が強くなる傾向があります。

石狩湾港、厚田港で聞きました。

石狩湾、沖だしの風に注意！

沖だしの風は、陸地寄りでは波が小さく、沖に出るほど波が高くなるため非常に危険。

※『沖だしの風』と言うのは、船を沖がわにだす風のことで陸地から海に向かう風、石狩では南東の風です。石狩、後志地方で南東の風は『やませ』『出し風』と呼ばれています。

注意

この情報は、地元海事関係者から聞いた参考情報であり、この情報のみをもって船舶運航の判断ができるものではありません。